2019年10月1日　―　つくり・うたい・ひろめ・つなぎあう　―　第609（1）

音楽運動

日本音楽協議会　〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町３丁目10-15 富士ビル505号室　発行人　松本敏之
TEL　03-3221-1821　FAX 03-6369-3057　URL　https://nichionkyou.org　Email　nichion@yomogi.or.jp

多様な作品と充実した演奏
感動の秋田音楽祭　来年は千葉で開催

音楽祭での事務局長まとめ

2日間の演奏と昨夜の大交流会たいへんご苦労様でした。

まずは、秋田県実行委員会実行委員長を担っていただきました、連合秋田の黒崎会長はじめ各構成組織の役員の皆様、労組の皆様、そして地元秋田県支部の皆様にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回の音楽祭は、ゲスト＝1、中央実委・県実企画＝4、スポットライト＝2、一般演奏＝33、その内訳は、サークル：15、労組音協：5、支部：11、広域合同：2の出演がありました。支部としては九州支部の演奏がなかったことが残念ではありましたが、東北南合同が初めてか数十年ぶりになるのか、山形と宮城の仲間が舞台に立ってくれました。

また、若い会員の交流会も6名が出演するなど、少しずつではありますが運動が広まってきていることが確認できたのではないでしょうか。

そして、なんといってもゲストとスポットライトのお二人の演奏は、まさにからだ全体を使って表現する。おなかの底から声を出し歌うという、私たちが見習わなければならない素晴らしいものでした。

各出演団体の発表も、日ごろの活動の成果を持ち寄り、レベルの高い内容となっていると感じました。個々の作品については、今後の幹事会等での議論の中で総括していきたいと思いますが、政治や選挙、労働、生活や暮らしといった多様な作品が作り出されたのではないでしょうか。

安倍政権による働き方改革により、残業が減ることで賃金も減り生活が苦しくなったという、おかしな状況も生み出されています。また、憲法改正も任期中に強行しようとしています。超高齢化社会という中で社会保障予算の削減や消費税の10月からの引き上げなど、弱者切り捨ての政策に対し、反撃するための手段の一つとして私たちの「うた」があります。

職場で起きている事実や働く者の声を一つの歌でつないでいく、声に出していくことによってこうした状況を切り開くきっかけになるものと信じています。そういった意味では、今音楽祭のテーマである「つなげみんなの想いをひとつのうたにこめて」を改めて全体で確認したいと思います。

エンディング

会場まえでの出迎え演奏

そしてそうした作品を広めるために、私たちは日音協ソングの募集をしています。昨日までに9名（組）から13曲の応募がありました。締め切りは本日13時までとなっています。まだ応募していない方、私の曲も応募してみたいという方は受付までお願いします。

さて、来年の第53回音楽祭についてですが、千葉県で開催することで準備をすすめています。各支部や団体で今日から準備を進めましょう。また、一方で音楽祭のあり方や開催方法についても引き続き議論中です。会員の高齢化や減少、財政的な問題など、乗り越えなければならない課題は多くありますが、各組織において前向きな議論を期待しながら、「つくり、うたい、ひろめ、つなぎあう」運動を前進させていきましょう。そしてまた千葉県でお会いしましょう。

（事務局長・金田）

BRONZE 道心

笠木博逸と仲間たち

第53回はたらくものの音楽祭
2020年6月13日、14日
千葉市・千葉県教育会館ホール

音楽祭・点描2019

会長　松本　敏之

第52回はたらくものの音楽祭は、9月15日、16日に秋田市の秋田県児童会館けやきシアターで開催され、両日とも200人が参加しました。

■9月15日。秋田県支部がオープニングを担当。オープニングにふさわしい広がりを感じる「青い空があれば」。「うたごえ峠」は「ブンブン」が弾けてノリよい演奏でした。ピアノソロもかっこよく。

■司会の佐渡恒幸さん（林野労組東北地本）、遠藤さゆりさん（自治労秋田）、小田島徹さん（秋田県教職員組合）、熊谷麻里さん（秋田県教職員組合）のあいさつに続いて、中央実行委員会を代表して松本敏之日音協会長が「職場で起きている事実や労働者の声を、ひとつのうたでつないでいこう」とあいさつ。秋田県実行委員会を代表して黒崎保樹連合秋田会長が「日音協のみなさんに連合秋田の活動に協力いただいている。ますますの発展を」とあいさつしました。

■ローカル線は、ほほえましい日常を「ふたりぐらし」としてうたいました。塚本さんのボルネック奏法もかっこいい。

■中央実行委員会企画：若い会員の交流会は、「ひでえ日だったぜ」のピアノ間奏もかっこよく。「祖国はひとつ」は、今、若い人が取り上げることに大きな意味がありました。「これから日音協を背負い、頑張ってほしい」と声がありました。

■ふらっと・しゃーぷは、「あざみの花」ではすなおな歌声がまっすぐ届きました。「星の海」はちょっと声が出にくい？

■阿部尚夫は、阿部さんらしい2曲。「大変な世の中になったものだ。政治にもっと目をむけよう」とストレートにうたいました。

■あおきせな&おだかずやは、母の愛情が見える、やさしい子守歌。きれいなメロディーが印象的、ハーモニーもとてもいい。

■Rico & Tatsuは、人間はひとりひとりが大切にされるべき存在なのだ、と思いがあふれた演奏。「名前を呼んでよ」が残ります。

■ブービーバンドは、時事ネタの楽しい「付き合いタクナイ」と、「ヘボミアンラプソディ」では磯野さんが熱演。チャンピオン！

■かたくりは、太古から繰り返される朝、何度目の朝だろうと「アンモナイトの朝」。戦後50年は長いようで短い。ピアノもいきる。

■パールライスは本当に久しぶり。藤澤さん、山崎さんのベテランに、青木三姉妹が加わって、すてきなハーモニーができました。

■たかのすびっきは4人で登場。びっき一流のやさしくさわやかなうた。「1曲だけでなくもっと聴きたかった」の声も。

■シングルトリオは隊長が客席から登場。秋田にちなんで「イージスアショア」ネタ。歴代天皇のなまえの暗唱にはびっくり！

■日音協ソング2018紹介曲の「Yo!-2」は第51回音楽祭映像から。誰でも持ってる腰痛を楽しく歌う。49（フォーティナイン）の生演奏を聴きたいね。

■ノーサイドは、ノリよく楽しそうな「歌っていいんでないかい」。「ごめんだぜィ」のパフォーマンスも絶好調。「さよなら原発」は日音協ソング2018紹介曲。

■シングアウトは、秋田県支部のリードで津谷・桜庭コンビの「春よ」と藤川さんの「うた」。「春よ」は「東北の春の美しさがイメージできる」との声も。

■メイウィンズは無伴奏で7人の男声合唱。「花は咲けども」は震災復興の重さをうたう。「アジアの風」も響きが美しく。

■あんくるんは、「アリラン」の異なるバージョンをうたいわける。「トラジ」はききょうの花、複雑なリズムもみごと。

■中央実行委員企画：日音協セミナーは、「メッセージ」でラップに挑戦。斬新な企画だが、未完成は否めない。

■スポットライト：笠木博逸さんは、さすがの笠木ワールド。「歩」という字は少し止まれと書く、「涙」は、水に戻れと書く。ギターソロもかっこよく、CCRもばっちり決まり。最後は「Let's sing a song」を客席のみんなと一緒に。

■合唱団ミールは4人の声のつりあい、ギターもいい。「なにもいない地球」は原発事故を糾弾。「私達は労働者」は評価が分かれる。

■林音協の「誰も知らない木こりたち」は、山で仕事をする人たちの日々のくらしと、その中での思いをうたう。もう少し楽しそうにうたっては。

■日音協長野県支部はしっかりしたアンサンブル。ヘルマン・エビングハウスは記憶に関する実験的研究の先駆者。戦争を忘れてはいけない。

■日音協青森県支部は、一人でも歌うという姿勢がすばらしい。笑いの末に、「言うことをきいてはたらいた結果」と。

■日音協沖縄県支部の「オン・ザ・ロード」は優しくも力強く。「ジュゴンが住む海」には「沖縄のおだやかな波を感じた」の声も。

■日音協新潟県支部は、名前の尊さと父母の平和への願いをうたう。日音協ソング2018紹介曲「ものさしを当てられて」は、「あなたのものさしでわたしをはからないで」と自分を励ますうた。

■日音協茨城県支部は、「少年の瞳」で戦場の残酷さを伝え続けることをうたう。作者の江崎さんが急病の中、ほかのメンバーが奮闘。

■日音協香川県支部の日音協ソング2018紹介曲「ねえ郵便屋さん」は、郵便局の職場実態をお客さんと労働者の対話でうたう。「ねえ郵便屋さん」が印象に残る。「縛られるな、囚われるな」は日の丸と君が代を扱う。

■日音協富山県支部は自然とともに生きることをうたい、情景がうかぶよう。「政治を変えよう」は井加田まりさんの選挙のうた。

■音楽祭1日目最後は、秋田県実行委員企画：日音協秋田県支部。大嶋さんの「紙ひこうき」は平和の尊さを子どもたちにつなげようと、桜庭さんとうたう。「春・夏・秋・冬」はなつかしい日本の風景をCDの伴奏で。「ありがとう」は夫婦の

きずなをうたう津谷さんの詩、桜庭さんのうたもすてき。「あなたにありがとう」には、「生きること教えてくれた…日音協そのもの」の声も。

■9月15日夜は、おなじみ全国交流会に143人が参加。佐渡恒幸さんの司会、黒崎保樹連合秋田会長のごあいさつに続いて、村岡厚史日音協秋田県支部長（県実副委員長）の音頭で乾杯。各地の地酒が持ち寄られる中、支部ごと、産業別労組ごとに参加者紹介。男鹿からなまはげも駆けつけて、参加者を激励。

■二日目の9月16日は、ゲストのBRONZE道心（二人バージョン）から。踊るように妖艶な和太鼓の「Lena」と高校生とは思えないサックスの「Hina」。オープニング「フォームノーフォーム」はサックス中心で耳にも身体にも優しい音。「YAMASE」は和太鼓中心で、やませが迫ってくるような。「魅夜火」は盆踊りを取り入れたノリのいい曲。「津軽フランク」は民謡風でもあり、日本海の風景が浮かぶ。最後の「ジャングルロード」はファンキーなテンポの良い曲。「フルメンバーで聴いてみたい」「バックの赤と衣装の黒がマッチしている」との声も。

■中央実行委員会企画：メーデー合唱団はマイクなしで生の合唱とピアノ。「新しい花を求めて」は歌詞を大切に。「ぞ」はことばが多いところ歯切れよく、すっとはいってくる。アレンジがいいとする声も。

■リバーサイドグラスは、音響担当の藤原さん自身がステージに。「愛と花と自由を」は対人地雷の悲劇をうたう。存在感のある声。

■ZENTEI ONKYOは「郵便屋ブルース零話DoSS（ディーオス）編」（楽譜別掲）で、DoSSシステムの作業管理の矛盾をうたう。映像と連携しなかったのが残念。

■自治労音楽協議会は30人を超える大合唱。「うたはボクらの心」は心なごむ三拍子。そして、新しい自治労歌をめざして。

■岩手県教職員組合は9人の美しい女性合唱。「ポラーノの広場のうた」は宮沢賢治の世界。「林と思想」もリラックスして。

■日本私鉄労働組合総連合会は労働組合歌を大勢でうたってカッコイイ。若いみなさんを前列に、先輩方がそれを支える。

■スポットライト：キョータは、元気と一生懸命な演奏。「サヨナラミライ」は「出会ったころのあなたが好きでした」と置き手紙していった恋人に、語るように。「今日も笑顔で」では男鹿の笑顔を届けてくれた。

■FMカンパニー（日音協北海道支部）はリズム感抜群。優しさやおだやかさの中に沖縄の悲しみや戦争の悲惨を。

■日音協東京都支部は、見えないことはなかったこと、知らないことはなかったこと、これくらいならと飲みこんでいいのか！と。

■日音協福島県支部は、作者の加藤さんの情熱、ふたりの明るくさわやかな声。譜面ばかり見ないで顔をあげては？

■日音協東北南合同は、福島県支部に山形、宮城の仲間が合流、本当に久しぶり。「風」は武内辰郎、岡田和夫の名曲。

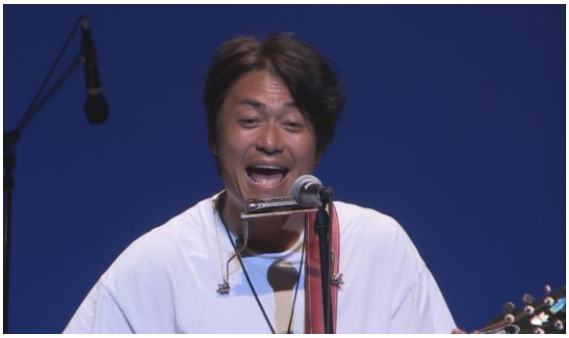
■日音協岩手県支部の「和平と愛実へ」は美しいハーモニー。「R・O・K・A」は老化を明るくうたい飛ばす。

■日音協東北北合同は、太鼓、手拍子、足拍子に新聞紙、コップ、空き缶も加わって雨を表現。武満徹の名曲も最後にふさわしく。

■エンディングでは、「春よ」「On the road」を会場の全員で。

中央実行委員会の金田事務局長のまとめに続いて、秋田県実と全国の音楽祭スタッフが登壇する中、秋田県実佐藤事務局長があいさつ。第53回はたらくものの音楽祭を来年6月13日、14日に千葉県教育会館ホールで受け入れた日音協千葉県支部根本事務局長が決意。

最後に「インターナショナル」をうたって、第52回はたらくものの音楽祭は終了しました。



男鹿の笑顔：キョータ

全国交流会には男鹿の「なまはげ」が乱入

東北北ブロック合宿

□2019年10月12日（土）～14日（月・祝）
□青森県八戸市・道の駅なんごう
□参加費：18000円（2泊5食）
□カリキュラム：合唱「物語」　他.
詩＝佐藤信　曲＝林光
第3回はたらくものの音楽祭主題歌
●参加申し込みは
青森・全国は、佐藤康弘（090-9037-5195）
秋田は、大嶋忠男（080-1839-3199）
岩手は、佐藤幸子（090-1497-5290）

関東ブロック合宿

□2019年10月12日（土）～14日（月・祝）
□茨城県常陸太田市・西山研修所
□参加費：13000円（宿泊、食事、会場費など）
□カリキュラム
・「舞台スタッフから学ぶ演奏者の心得」菊池正彦さん
・「リズムを楽しむ」久保田栄一さん
□申込先
日音協各支部へ　または
日音協（nichion@yomogi.or.jp）まで

歌っていいんでないかいコンサート2019

FMカンパニー　My On The Road

全国からの応援演奏を待ってます

秋田での「はたらくものの音楽祭」の余韻もまだ冷めてないが、FMカンパニー（日音協北海道支部）は11月2日（土）に「歌っていいんでないかいコンサート2019」を開催する。

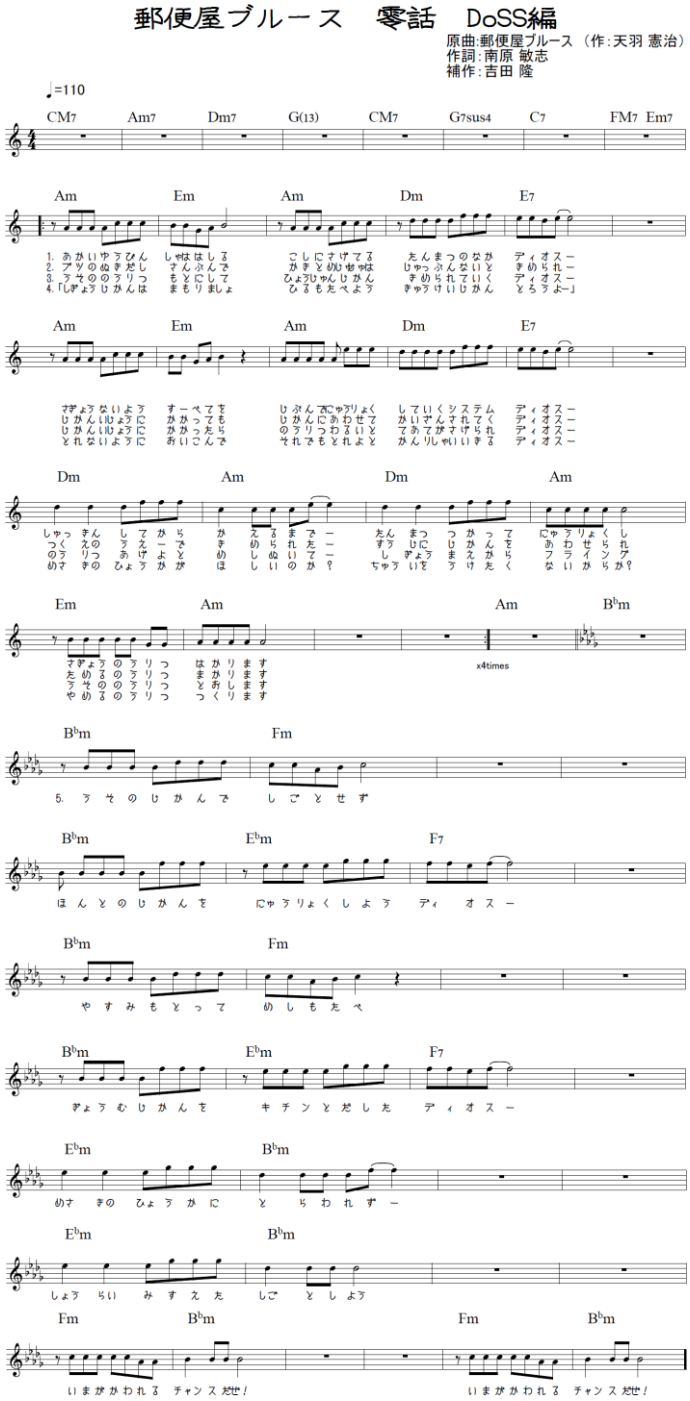
2017年のコンサートから2年ぶり、場所は前回とおなじ「ことにパトス」だ。17時開演。

ワンドリンク付き 1000 円しかも会場では缶ビール、地酒が一杯200円で飲めるとあって、「飲んで楽しい歌を聴けて最高に楽しかった」と好評だった。

出演はFMカンパニーのメンバーで「まとばよしおと ROC」「笠木博逸＆沼前光典」「CF ボーイズ」「ブルートレイン」「ブービーバンド」「石川加鶴子」など、そしてゲストとして魂のロック歌手の朴保（パクポー）が来る予定。

前回は秋田の「リバーサイドグラスと大嶋忠男さん」がはるばる友情出演してくれた。2013 年の前々回の時は長野の「ローカル線」も来てくれた。今回も全国からの「友情出演」を期待しています。

とはいえ「まったくの自腹」なので恐縮です。なのでオプションとして「さっぽろの観光」をこちらでご用意しています。前回の観客は 100 人をこえて大盛況だったので、今年も退職者連合の役員の的場芳男さんの動員力に期待しながら 100 人を目指します。　（磯野宏之）



日音協秋田県支部と東北北合同が一番人気

第 52 回はたらくものの音楽祭の参加者アンケートは、13 枚の回収にとどまりました。アンケートで、「印象に残った曲は？その感想」「印象に残った出演団体は？その感想」をうかがったところ、曲、出演団体と明確に分けないご回答が多かったので、そのいずれかで言及された曲または出演団体として数えてみました。

アンケートで一番言及が多かったのは日音協秋田県支部と日音協東北北合同が同じ5。秋田県支部のうち「紙ひこうき」が3でした。日音協東北北合同のうち「雨の音楽」が4、「明日ハ晴レカナ曇リカナ」が2でした。ほかには、東北南合同の「風」、リバーサイドグラス（うち「愛と花と自由を」が2）、BRONZE 道心、FMカンパニー（うち「明日はハレルヤ」が2）が、それぞれ3票ずつでした。

その他のところでは、音楽祭2日目にモニタースピーカーから返しが聞こえなかったことや、舞台の絵と看板の字がステキ、などの声をいただきました。　（松本）

第3回イットクフェス 2019

2019年9月22日、11時～20時、第3回イットクフェスは、心配された雨雲も吹き飛ばす勢いで、滞りなく開催されました。

日音協にとっては、秋田音楽祭から1週間という過酷な日程でしたが、担当した『うたう茱萸坂ステージ』には19組が出演。

合唱あり、弾き語りあり、一人芝居あり、一人ミュージカルあり、親子ユニットあり、シャウトあり、サックスとドラムとサウンドあり、大阪から長野から福島から、老若男女それぞれの立場による思いと感性によって、過去2回を上回る多彩な表現の場となりました。

反原発うたいたい

日音協から出演した、『反原発うたいたい』『おだかずや』『Piggies』『瓦井孔二』『Rico & Tatsu』のステージは、それぞれに主張と個性が際立った発表でした（多少の身内びいきはお許しください）。

また、今年は『烈火ステージ』で演奏した『YUKIN』（福島県支部の菅井さん）も飛び入りで歌い、被災者の思いをつたえてくれました。

おだかずや

今回は、国会を左側（衆議院側）から見据える場所だったということで、言いたいことをぶつける目標点が定まったからか、そういう意味での盛り上がりも過去最高でした！

素敵な時間をつないでくださった皆様、本当にお疲れ様でした。そして、PAの日下さん、ありがとうございました。

片付けは雨の中でしたが、日音協と歌の仲間たち、出演者皆さんの協力であっという間の撤収作業でした。

（坂口美日）

Piggies

瓦井孔二

Rico & Tatsu

来てくれたお客さんは本当に楽しんでくれたのは SNS などを見て分かります。普段、市民運動などに参加している方もいますが、その方たちもイットクについては、かなり楽しんでいます。

イットク フェスがもっと口コミで広まり、何万人、何十万人も参加するモノになっていけば、今のように簡単に自由を束縛する法律や、あいちトリエンナーレの河村市長みたいな表現に対して権力がダメ出しをするみたいな発言とか出来なくなってくると思うのです。　（呼びかけ人:浦邉 力）

―　出演者、スタッフへの SNS から抜粋　―

＝日音協ソング２０１９＝

- ●明日はハレルヤ　詩・曲＝桑野功
- ●ありがとう　詩＝津谷さつき　曲＝桜庭智英
- ●生きる　詩＝相良倫子、笠木博逸、守谷明宏　曲＝笠木博逸
- ●一歩一歩一歩と　詩・曲＝大門悟
- ●歌っていいんでないかい　詩・曲＝桑野功
- ●カード　詩・曲＝森理子
- ●紙ひこうき　詩・曲＝大嶋忠男
- ●ごめんだぜィ JAPAN　詩・曲＝北山清希
- ●ずっとずっとずっと　詩＝津谷さつき　曲＝桜庭智英
- ●付き合いタクナイ　詩・曲＝B・B・B
- ●隣の家ウチの家　詩・曲＝宮脇昌典
- ●なまえ　詩・曲＝森理子
- ●人は　詩・曲＝瓦井孔二
- ●郵便屋ブルース零話 Doss 編　原詩・曲＝天羽憲治　詩＝南原敏志　補作＝吉田隆
- ●私達は労働者　詩＝瓦井孔二、合唱団ミール　曲＝瓦井孔二

歌の力が物語るもの82

官邸前反原発行動 9／27（365回） 報告 ようこ

参加者：ヨネさん、スーさん、ようこ、達哉、なべさん、鈴木 計6名

地下鉄の駅を出ると、反原連のコールが聞こえてきた。「岩根はやめろ」など、当然 関西電力を批判するコールをしている。関西電力の八木会長や岩根社長をはじめとした20人が7年間で3億2000万円相当を関電高浜原発が立地する福井県高浜町の元助役から受け取っていたのだ。おまけに、岩根社長は辞任を拒んでいる。この手の犯罪は他の電力会社、原発の立地する県や町でも行われているだろう。この事件の徹底究明を求める。そして、原子力発電の廃止を求める。地方で大量に発電して、遠い都市部に送るのではなく、エネルギーの地産地消をいつか実現したい。などと、いろいろな事を考える日になった。

茱萸坂を下って行くと、清美さんと、スーさんの友達のヨネさんがいた。「スーさん来ないね～」と言っているとスーさんも登場。ヨネさんは知る人ぞ知る『Do！廃炉』のファンなので、まず、『Do！廃炉』をやる。ベルトの鞭はヨネさんに頼む。「ハーイ」と景気良く掛け声をかけながら、ベルトを鳴らしてくれる。次にもう一曲、彼のリクエストで『怒りの拳をあげよう！』をやった。ここでもヨネさんはノリノリだ。その後、『草たちよ』『フクシマをくり返すな』『明日がない』『明日を殺すな』を歌った。なべさんも参加していた。が、反原連の方へ去っていった。

さて曲決めだ。『明日がない』『明日を殺すな』『草たちよ』『原子力発電NO！』の4曲に決めた。ところが、ここへ達ちゃん登場！どうしても『答えは我らに』をやりたいといって譲らない。その情熱に負けて、『明日を殺すな』のかわりに『答えは我らに』を歌うことになった。

たんぽぽ舎のエリアでは、なべさんも合流した。

たんぽぽ舎の皆さんは、ちょうどこの日、関西電力に抗議に行く日だったので、この日明らかになった、関西電力と高浜町当局との癒着・還流への抗議を行ったということだった。

定位置に戻り、お見送りの歌を歌って今日の行動を終えた。スーさんと達ちゃんは京王線の乗り場までは一緒に帰るとのことでした。

（写真は、今年の9・16行動）
写真と文は直接関係ありません。

▼福島原発事故の刑事責任を問う裁判で、東京地裁は9月19日に東京電力の最高責任者3人の被告に無罪を言い渡した。今回の裁判の争点になったのは、東電が大地震による巨大津波が引き起こす原発事故を予測することができたかどうかだった。▼判決では「津波が来る可能性を指摘する意見があることは認識していて、予測できる可能性がまったくなかったとは言いがたい」とする一方で、「原発の運転を停止しなければならないほどの巨大な津波が来ると予測できる可能性があったとは認められない」としている。しかし、認識していたのならば、最悪の事態を想定した対策、または運転の停止を指示することこそが危機管理であるはず。それを行わないのは、「業務上の過失」であることは明白だ。廃炉作業や汚染処理水など果たすべき安全対策を怠り、事故を起こした東電と国の果たすべき責任が問われないのはどう考えても政権への忖度としか考えられない。▼事故が起これば国土を半永久的に汚染し、住んでいた人々の生活を奪い、補償賠償は早期に打ち切って、被害者は泣き寝入り。それでも誰も責任はとらない。▼人類が制御不能となる事故の可能性がわずかでもあるのなら原発はゼロにするしかない。

水道橋だより

▼秋田音楽祭、ごくろうさまでした。わたし自身、いりいろ冷や汗ものがあったり、ご迷惑をかけたこともありましたが、なんとか乗り切ることができました。秋田県実行委員会の皆様のご協力に感謝いたします。▼音楽祭直前になって、急きょ舞台監督から照明室担当に変更になったものの、いざ仕込みの段階で、スポットライト照射に3人（林野労組）、照明卓には2人（秋教組）、それぞれ三役クラスの方が配置となり、会館スタッフのレクチャーを頂きましたので、お任せすることにしました。▼逆に、もともと照明の基礎がないものですので「この場面になったら、客電を少し明るくできますか？」みたいな言い方をしたら、「この場面は80%の明るさで、とか指示してください」とか諭され、改めて参考になりました。▼あと演奏する皆さんにお願いです。せっかく、台本を出していただくのですが。『最後の歌、1番の歌が終わって、2番になったら照明を明るくしてください』というキッカケ。間奏とか入って分かるんだろうと思っていたのですが、どこから2番か分からず、タイミングを逃してしまいました。楽譜もいっしょに頂ければ助かります。▼セットされたスライド映像に合わせて演奏するのも大変ですね。プロジェクターをスタートさせてしまえば、映像と演奏がシンクロしていなくてもどうしようもできませんでした。▼いろいろ失敗談をあげればキリがありませんが、来年の千葉音楽祭を成功させるための糧としたいと思います。まずは自分が知識を吸収していこうと思います。（佐藤）

どん行（123）

飯島貞親